



アラブ人の地図・地理学者Muhammad al-Idrisiが1154年に製作した世界地図。地図上部が南を示す。必ずしも全てが正しくはないが、彼が初めてアジア・アフリカ・ヨーロッパ域を網羅する正確な世界地図を作ったとされる。地図の歴史においてアメリカ大陸が登場するのはもう少し先のことである。

TRIP-TRAVEL-JOURNEY

旅するように生きる



現在、世界では金融不況、地球温暖化、人口爆発、食料危機などが起き、それに伴い経済の潮目も変わったといわれています。

これらは産業革命以降、経済を拡大し消費することが発展の原動力とされるなか、エネルギーを無限に使ってきたことに対する当然の帰結です。消費エネルギーを抑え、文化のエネルギーと創造の力で世界を変え、人々の生活を考える、本当の人類の英知が必要な時期が来たといえます。

TOKYO DESIGN FLOWはこのような問題意識のもと、都市の状況や人々のライフスタイルそのものをデザインの対象としてとらえ、それら全てのデザインを覆う傘となり、大きな流れを創り出す運動体となることを目指します。

TOKYO DESIGN FLOWは一つの事象を表すものではありません。

東京を中心にデザインを取り巻く状況を、マンスリーイベント「LAST THURSDAY」をはじめとするリアルイベント、ウェブサイト、紙媒体などを通し情報を発信していきます。

Design & philosophy

旅の本質 Substance of traveling



大航海時代、マゼランは1520年から5隻の船で世界一周の旅に出た。南米大陸の南端の海峡(後にマゼラン海峡と名付けられた)を廻り始めて太平洋に乗り出したときは、大西洋と違って静かでピースな大洋であったと記している。偶然一度も台風に遭わなかったのがPacific——平和な海と名付けた。マゼランはフィリピンでラプラプ王に殺されたが、艦はそのまま世界一周を成し遂げた。それ以来人は地球が丸いことを認識した。しかし考えてみると人類は地球が丸かろうが平たい地面だろうが、旅をし続けてきた。知らない土地を求めて遠くに行きたいという本能のままに、タクラマカン砂漠を超え、サハラを横切りアマゾン川を上って旅を続けてきた。

なぜ人は旅をするのか Reason to travel

中世では旅をできる人は自由人、江戸時代も旅行することは禁じられていた。都市の空気は人を自由にするといはれるように、人々の自由な心は封建的な体制には相反するものであった。自由人であることが近代人の証であるとする人々は自らの由りどころである自由を求めて旅をするようになった。マルコ・ポーロやバスコ・ダ・ガマやマゼランやコロンブスや多くの冒険旅行家の物語は僕らをワクワクさせる。危険だからこそ、未知であるからこそ、人は旅をする。それは自由を求め、富を求め、未知を克服するという不思議な人間の習性によるものと思えない。



多様な現代の旅の意味 Diversity of culture

現代では物理的に移動するという旅は驚異的に手軽なものになってきた。Web2.0社会になりTravel 2.0といはれるように、ネットで一番安く最短の旅行が可能になってきたが、同時に検索エンジンにより画一的な視点の旅がほとんどになり、多様な生活をのぞき、思ってもいなかった場面に遭遇するという旅の醍醐味が失われていくように見えるが、それすらも単一的な視点といはざるを得ない。人間の好奇心とインスピレーションのなくなる時は人類の歴史を閉じるとき、これからも人類は無限に旅をし続けるであろう。僕らはこの、旅をしたいという生命力を最も尊敬している。旅には旅の所作と仕方がある。旅の喜びを最も得るのはどうするかが今の僕らの興味の中心。多様な生命体の多様な生活を探求するということ。東京に生活するということが一緒に旅をしているようなものだと思えてくる。

いやー、最近暑いね。梅雨明けもしたことだし、海でも行っちゃおう？っていつもなら、誘うところなんだけど、いいかげん僕も学んできたよ、このコーナーの勝手はさ。どうせつられるもんね... それはそうと、この間香港から帰ってきたんだ。良かった。っていうか、やっぱり旅はいい！東京を離れて、俯瞰で物事を考えて、自分をリセットするような感覚っていうのかな？あ、なんかカッコつけちゃった？らしくないね。ごめんごめん。で、どう？飲茶でも食べながら、土産話に花咲かせちゃう？……え、そんなことより、この靴？N.G.R.の新作だよ。ここでチェックしてよ！www.ngrproducts.com さ！

MAT.



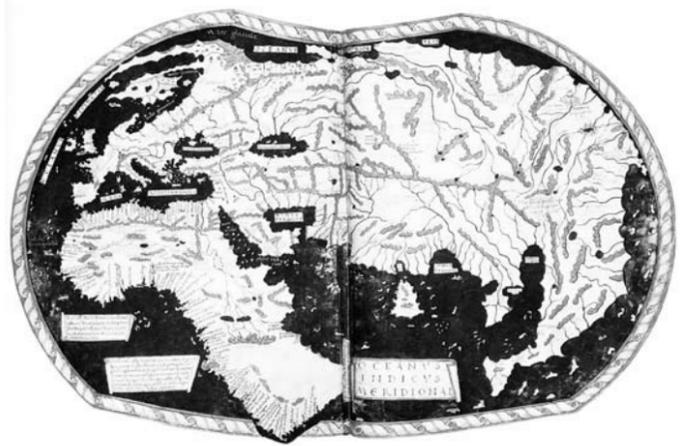
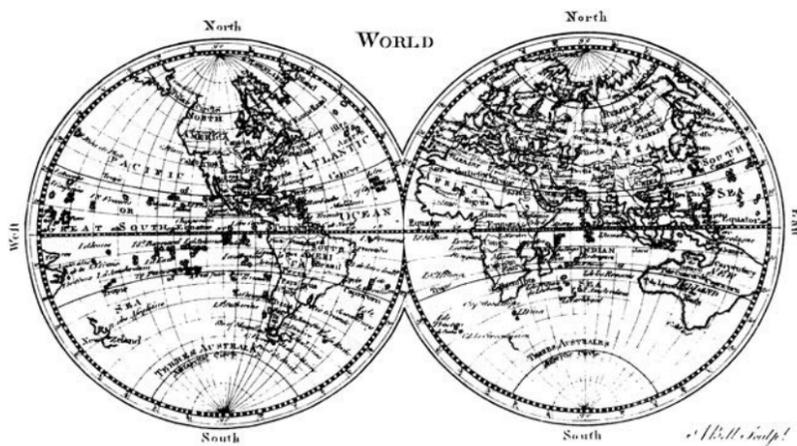


TRIP - TRAVEL - JOURNEY

TRIP TRAVEL JOURNEY

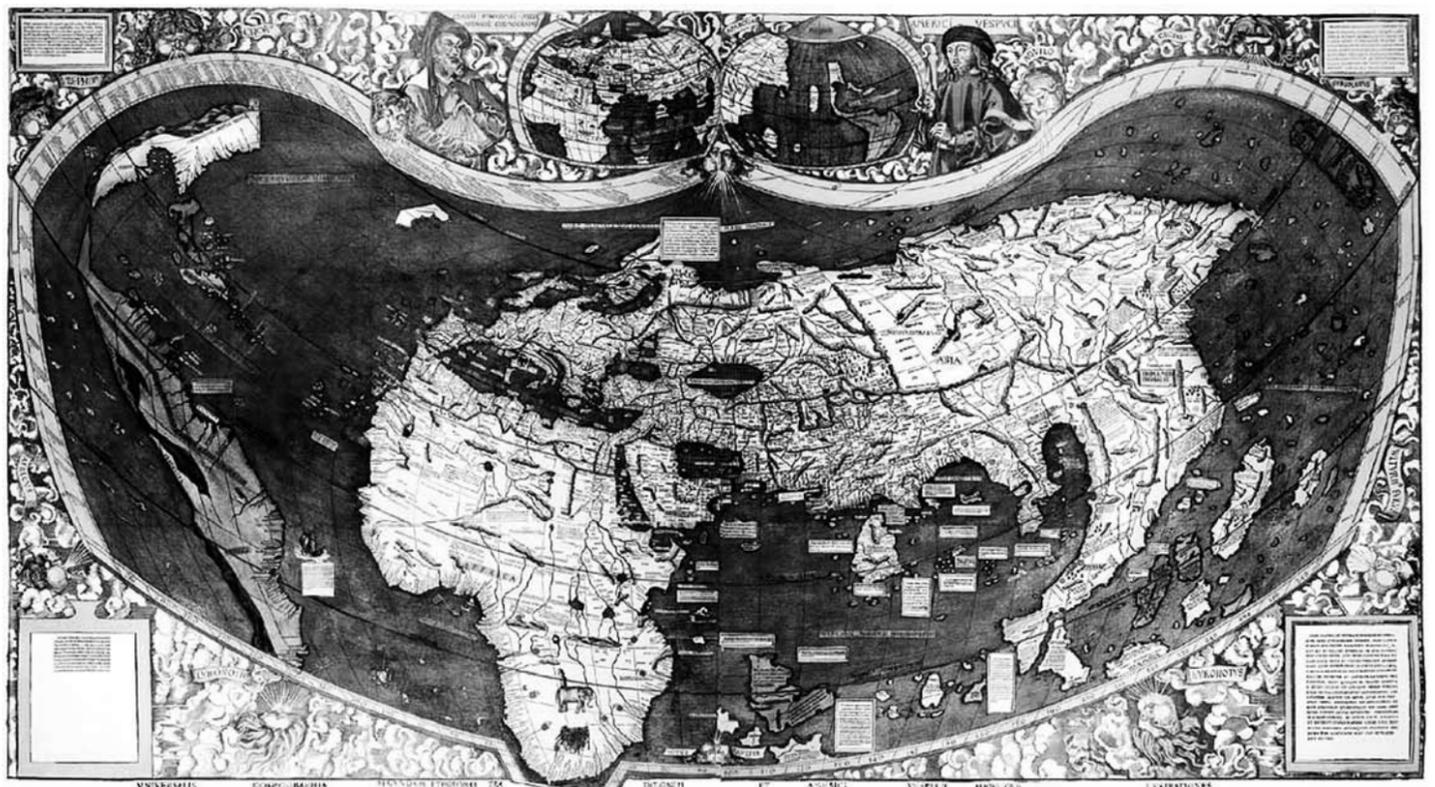
旅するように生きる

旅をすることには、様々な意味がある。非日常・冒険・逃避・開拓・好奇心。
 たくさんの「○○としての旅」があり、一つとして同じ旅はない。
 旅から得た経験は新たな視点をもたらしてくれる。
 そして旅は物理的な移動だけを指すものではない。
 本が誘う思索の旅。音や匂いから始まる想像の旅。
 バーチャル空間での非現実の旅。旅は日常のなかにある。
 様々な旅の目的地から、日常と旅の関係性を考えてみよう。



World Map

古くから人は地図を記すことに力を注ぎ、その地図を頼りに旅に出てきた。そして地図には国家の思惑や宗教的思想も、時に顕著に現れる。世界の捉え方は画一的ではない。そして旅することは地図を自由に編集すること。地名以外に書き込むのは世界を回る順番や自分が行った場所、行きたい場所。世界が手のなかにあることは、不思議な感覚だが、だからこそ地図は想像力をかき立て、人々を魅了するのかもしれない。





のぐちやすお interview

自転車野郎世界一周

旅を日常と切り離されたものではなく、探究心と好奇心の赴くまま、自然体でどこへでも足を運べる人のことを本当の旅人と言えるのかもしれない。そんな生き方を自転車で実践している、看護師で冒険家で自転車野郎な、のぐちやすお(埜口保男)さんにお話を聞いてきました。

interview & text : 清田直博(Media Surf Communications Inc.)

なぜ自転車で旅を？

小さな頃から地図ばかり見ていました。地理が大好きで。学生時代に最初の旅に出る時、お金のかからない移動手段として自転車を選びました。夏休みに世田谷の学生寮から北海道まで12日間かけて旅をしたのが始まりです。今は世界各地を1週間くらいで細切れに走っていて、去年はマレーシアを走ってきました。

初めての海外旅行で自転車世界一周されたんですね？

学校を卒業して2年くらい働いて200万円貯めて、準備に50万円使い、残りの150万円を持って(当時は1ドル210円、約7000ドル)、1981年23歳の時に旅に出ました。結果的に6年間で北米～南米～ヨーロッパ～アフリカ～南米～南太平洋

ういう時代でしたね。いつ帰るかも決めていませんでした。物価が高いヨーロッパでお金がなくなってきたので、ニューヨークで7ヶ月間皿洗いをしたり。帰ったら最後だ、という思いがありましたね。2度目の南米へ入った時、区切りつけない気持ちが出てきて、日本までのチケットを買いました。そのあと南太平洋の島々を走り、オーストラリアで旅を終えました。帰国後、元職場の上司に報告をすると、翌日から働けと言われていましたが、さすがに休ませてくれということで帰国1週間後からまた働き始めましたよ。看護師という資格があるからできる働き方かもしれませんね。

のぐちさんにとって旅とは何ですか？

知らないことを知りたい、知識を広げたいんです。他の人は知らないことがあるこ



とに不安じゃないんですかね？ 旅は生活の一部で、日常と旅の区別はありません。日本は平和すぎるので、旅で味わった緊張感を常に維持していきたい。電車で居眠りできる国なんて他にないですから。

これから旅に出る人へ伝えたいことはありますか？

今若い人に旅のアドバイスをしていますが、なかには細かい旅の計画をびしりと書いてくる人もいて。計画に振り回されるようでは本当の旅はできませんよ。おおざっぱな人のほうが旅には向いているかもしれませんね。今後も本と組織を通じて、若者をサポートしていきたいです。

～オーストラリアを自転車で旅したのが初めての海外旅行です。

記憶に残った人たちは？

ブラジルでの歓迎がすごかったですね。日系移民の人たちから毎晩歓迎を受けてなかなか先へ進めませんでした。飲み会の口実にちょうど僕が使われた感じで。2～3日経って出発すると言うと、もうちょっといいじゃないかと。いよいよ出発する時には「次はどこに行くのか？」と聞いてくる。すると次の町の入口で待ってたり。移民のほとんどが高度成長期を経て豊かになった日本を知らなくて、日本のことについていろいろ聞かれましたよ。

いつ旅を終えるか決めていたのですか？

帰って来れる保証のない旅でした。そ

Yasuo Noguchi

1958年茨城県生まれ。1998年放送大学卒。2006年放送大学修士修了。千葉県職員・看護師。サイクリングの魅力にとりつかれ、年少時の虚弱体質を克服。1981年5月～1987年3月、6年間走り回って52本のタイヤを履き潰し、70ヶ国に85000キロを走破(世界一周第1ラウンド)。1992年7月～93年8月、中南米・東欧・ロシアなど43ヶ国27000キロを走破(世界一周第2ラウンド)。1994年3月からは世界一周第3ラウンド。細切れ編として、毎年1回1週間程度の海外走行を積み重ねている。これまでの総走行距離は、海外・国内合わせて約35万キロに及ぶ。

*のぐちさんに会いたい人は下記団体まで。

・CVJ(サイクルボランティア・ジャパン)
www.cvjapan.org
・JACC(日本アドベンチャー・サイクリストクラブ)
www.pedalian.com
・地平線会議 www.chiheisen.net



*自転車で世界を旅したい人へ



「自転車で地球を旅する
～30年 35万キロ、変化する
世界放浪のかたち」
のぐちやすお
ラビュータ
四六判 208頁
定価 1575円(税込)
www.laputa.ne.jp

TRIP-TRAVEL-JOURNEY

天野タケル interview

CITY OF LOVE!

渋谷にPICO BARとPICO GALLERYというスポットができた！さらに、そのギャラリーで6/25から7/16まで天野タケルさんが展覧会をやっているとの情報もあわせてキャッチ！しかも、この展覧会は「旅」や「都市」をテーマにしたものさそう。これは行くしかない！ということで、インタビューしてきました。

text : MAT. (Media Surf Communications Inc.)

MAT. (以下、M): まず、今回の展覧会について教えてください。

天野タケル (以下、T): ここはバイクルーズのギャラリーなんですけど、もうすぐ発表になる都市のおみやげTシャツプロジェクトみたいなものを一緒にやっているんですね。たとえば、ニューヨークだったら、「I LOVE NY」Tシャツってあるじゃないですか？ そういった各都市のおみやげTシャツを新しい切り口でデザインしちゃおう、というものなんです。具体的には、ニューヨーク、パリ、アブダビ、ムンバイなどの7都市のおみやげTシャツが発売されます。で、今回はあまり時間はなかったけれど、そのTシャツプロジェクトにもつながるし、過去の作品のほとんどは都市や旅の思い出が詰まっている作品ばかりだから、「CITY OF LOVE!」をテーマに掲げて、都市や旅にフォーカスした展覧会をしようかな、と。

M: なるほど。「旅」と「絵」の関係はタケルさんにとってどういったものでしょう？

T: 今まで旅にいったら、無理にでもそこで感じたものを作品に落とし込もうとしていたんですけど、最近「そうじゃないな」と気づいたんですね。無理に落とし込もうとしなくても、体験したことはそのまま蓄積さ



れて、自然と作品に表れるんじゃないか、と思うようになりました。

M: 旅で得た経験が自然と作品のなかに入れてくると？

T: そうですね。前はたとえば、ニューヨーク行ったらがんばってニューヨークらしいものを無駄を省いて描いてやろう、と思ってたんですけど、ただ、それだと結構キツ

くなっちゃうことに気づいて。人間食べたもので体ができるじゃないですか。見たもの、聞いたもの、触れたもので人間の性格の部分は形成されていくと思うんですね。だから、無理しなくても体験は血肉となって出てくるものだろうと考えるようになったわけです。

M: 旅以外からもいろいろとインスピレ

ションは受けますよね。

T: でも、旅はとてわかりやすいですよ。例えば、北京を訪れた後は赤が使いたくなったり。スペインの闘牛だったり、イタリアの標識からだったりとかですね。

M: もともとニューヨークにも生まれていたんですよね？ なんかいろんなものスピードが速い街ですよ。あそこは。

T: 僕はあそこには20歳くらいから3~4年くらいいたから、一番多感な頃を過ごしたと思います。でも、街のスピードは東京のほうが速いでしょう！ ニューヨークは久しぶりに帰ってもそんなに大きく変わったという感じがしないけれど、東京は半年離れているといろいろと変わってますね。あと、ニューヨークに住むのに僕は楽だった。画材屋も多くて、安いし、まわりからの干渉ってのも少ないしね。極端な話、パンツだけで歩いていても何も言われなと思います(笑)。

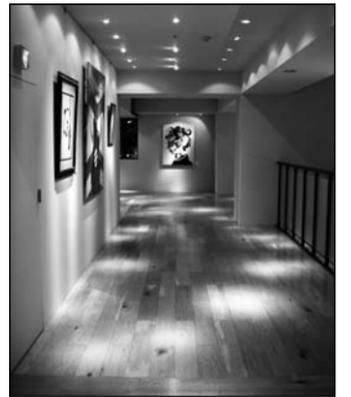
M: 今後行ってみたい都市はありますか？

T: ロンドンかなあ。一度も行ったことがないんですよ。街が見たいよね。

M: 次は是非、ロンドンでの思い出が詰まった作品を楽しみにしてますね！



Takeru Amano
画家 / 彫刻家。1977年東京生まれ。1997年にニューヨークへ渡り、版画工房でシルクスクリーンやリトグラフの技術を習得。2000年に帰国後、東京を拠点に活動を始め、2004年には不世出の画家・岡本太郎さんのパートナーだった岡本敏子さん(05年死去)の名前を冠した「岡本敏子賞」を受賞。彫刻家としても高い評価を得ている。www.takeruamano.com



Gallery Information
PICO GALLERY
【住所】東京都渋谷区神南 1-20-17【電話 & FAX】03-6415-2017
www.baycrews.co.jp/picobar/

KLM × EDIFICE / North, East, South, West, "CITY OF LOVE!"
旅をキーワードに「CITY OF LOVE!」と題し、人気アーティスト天野タケル氏・KLMオランダ航空・North, East, South, West, ラインとのトリプルコラボレーションがスタート。KLM航空の就航都市のなかから、EDIFICEが独自の視点で選んだ世界の様々な都市をPICK UPしたスーパーニールTシャツを製作。
edifice.baycrews.co.jp/information/126.html

Libero interview

世界一蹴の旅

4年に一度のサッカーの祭典ワールドカップ。2010年の開催国は南アフリカ。その南アフリカでの本大会をゴールに 32の出場国への旅をスタートさせたユニット「Libero」。メンバーはアシシさんとヨモケンさん。今回はすでに韓国へ出発したアシシさんに続いて、日本を発つ直前のヨモケンさんにインタビュー。

interview & text : 堀江大祐 (Media Surf Communications Inc.)



「世界一蹴の旅」を始めるきっかけは何だったのでしょうか？

アシシさんと一緒に行っていた2006年のドイツワールドカップが終わって、日本に戻ってから、僕は仕事で中国に駐在することになって、アシシさんは一年の半分を仕事、半分を旅という生活をしていました。それから2008年にアシシさんが仕事で上海に来ることになって、久しぶりに再開したんです。アシシさんと将来のことや旅のことをいろいろ話しているなかで、話は自然と2010年の南アフリカワールドカップの話になり、それに向けて何かできないか、ということいろいろとアイデアを出し合った結果導き出されたのが「世界

一蹴の旅」です。

どんな旅になるんですか？

2010年のワールドカップをゴールとして32の出場国を巡ります。自分たちを「サッカー日本代表サポーター親善大使」として、勝手にですが(笑)、出場国各地の様子をブログで伝えていきます。サッカーの戦術どうこうといったところは僕たちじゃなくても、プロのメディアや論議者がいるので、サッカーや周りのサイドストーリー的なことを伝えていければな、と。

一般的に、スタジアムでチームを応援するような割とサッカー好きな人たちは、フィールドでプレーする11人の選手をサポートする、という意味で「12番目の選手」と呼ばれます。コアなファンというのは、サッカーに限らず、どの世界でも大切な存在です。そういう意味では僕らもここに分類されます。一方で、普段スタジアムに足を運ぶことはあまりないけど、ワールドカップのような一大イベント、お祭りの時には応援に行く人たちにも、もっともっとサッカーや代表の応援の楽しさを知ってもらえ



ればな、と思っています。サッカーそのものには、それほど興味はないけれど、僕らの旅を面白おかしく見守っていただくような、ある意味「13番目の選手」になってもらい、その結果として、サッカーにもっと興味を持って、日本代表を応援するようになってもらいたいなと思っています。ですので、ブログの中身に関しても、サッカーを中心しつつも、現地で活躍している日本では知られていない日本人に会いに行ったり、世界中にあるマクドナルドを観察したり、日本に対する認識を各国の人に聞いてみたり、文化的な側面も伝えていこうと考えています。



ヨモケンさん自身を今回の旅に向かわせた理由は？

アシシさんと上海で再会し、旅の相談に乗っているうちに、自分が旅する気分になってしまいました(笑)。あと、サッカーとは関係なく、学生のころから、よく旅に出ていて、僕の人生が30歳というひとつの区切りを迎えるこの年に、世界一周旅行というような長期間で大きなことをしてみたいと思っていたことなどいくつかの要因が重なって、アシシさんと考え抜いた末に今回の「世界一蹴の旅」となりました。

ワールドカップにはいつから行き続けているのですか？

初めて行ったのは学生だったころの1998年フランスワールドカップで、懸賞論文に当選してタダで行くことができたんです。その時はもちろんスタジアムで大盛り上がりしましたが、環境や文化といった面でもすごく刺激を受けました。それからは毎大会、現地足を運んでいます。2002年日韓共催の時は就職をし、2006年には中国へ転勤。そして今回の2010年。4年毎のワールドカップの開催と同時期に僕には転職が訪れているんです。よく「次のワールドカップは行くの？」と聞かれるのですが、「僕にその質問はおかしい」と思うほど、僕にとってワールドカップに行くことは特別、且つ自然なことなんです。

「旅」って何ですか？

旅はそんなに大それたことではないし、大袈裟なことでもなくて、疲れたら帰ってきます。今は「情報技術」を駆使すれば、旅の負担は少なくなるし、旅はもっと簡単になってきています。気構え過ぎずに自分たちのペースで旅を続けていきたいです。是非ブログで僕たちの旅をのぞいてみてください。

お気をつけて！楽しいレポートを期待しています！



インタビューに答えてくれたヨモケンさん。

Libero
アシシとヨモケンからなる、2010年南アフリカワールドカップに出場する32ヶ国を巡る「世界一蹴の旅」をしているユニット。その旅の様子はブログにて発信されている。
ホームページ: <http://www.libero2010.net>
ブログ: <http://ameblo.jp/libero2010/>



430 上原ヒロシ interview

旅をする度に旅が好きになる。

電話をすると呼び出し音がよく海外のそれだったりするわけです、ヒロシくん。
BMXの大会のジャッジや他の仕事のために、海外だけでなく日本中も旅してまわる、彼の「旅」観をインタビューしてきました。

interview & text : MAT. (Media Surf Communications Inc.)

MAT (以下、M): どれくらいの頻度で旅をしますか?

上原ヒロシ (以下、H): だいたい、月に一度は海外/国内に一週間は行ってね。ほとんどが仕事をからめてだけど、滞在期間中のうち必ず一日は空きの日を作ってその街を一人で探索するようにしているんだ。基本的には、自転車 (BMX) を持参して行くから、小さい街ならほとんどどこへでも行けちゃう。そういうことも自分の旅の楽しみになっているね。

M: 目的地では何を一番したいですか?

H: さっきとかぶるけど、自転車で街の探索をするね。そのなかで出会った人や、名産品などを食べるのは、僕が一番したいことかも。特に現地の人たちが実際によく行く食堂へ行ったり、ストリートフードなどを食べたりするのが好き。いわゆる、観光客っぽい行動は、あまりしないなあ。たまに、そういうのも撞けるけど……。でも、現地の友達が連れて行ってくれない……。 (笑)。故にガイドブックに載っているようなおいしい店とか、きれいな建物も見れずじまいということが多いよ。けっこう後悔もしたりして……。 (笑)。

M: かならずこれは旅に持って行く、というものは何かありますか?

H: 自転車とノートパソコンかな? 自転車に関しては、移動距離が格段に広がるよね。あと、目線が歩くのと近いし、車や電車で

は、発見できない物を多く見つけることができるよね。ノートパソコンは、自分が思った印象をメモしたりする事と、画像化してインスピレーションをその場で形にする事が出来るという点で非常に重要な。あと、それによって、どこにいても仕事ができるという点で、事務所がないと仕事ができないという東縛から逃げる事が出来るしね。

M: 今までで、最も印象に残っている都市はありますか?

H: 最も……。ね……。難しいな。どの街でもその土地にしかない物はあるし、これが好きってきめるのは、難しいかも。強いていうならば、横浜、神戸、函館、香港、モナコ……。僕は、港の街が好きかもしれない。

M: 港街という?

H: 都会なんだけど、若干スローで、スローなんだけど、住んでる人はスタイリッシュだったりして……。基本的には、スタイリッシュな人が沢山いる街がすきだよ。そういう意味では東京やニューヨーク、パリなんかの大都市も好きだよ。

M: ヒロシくんにとって「旅」とは?

H: 人生の一番重要な楽しみ。新しい街を訪れるときは、いつもわくわくする。そのわくわくがあるからこそ、新しい旅は辞められないよね。旅をする度に旅が好きになるよ。

M: 散歩するかのよう旅をしますね。また、いろいろな旅話、聞かせてください。ありがとうございました!



Hiroshi Uehara
430代表 / DIRECTOR / BMX RIDER / KOG OFFICIAL JUDGEMENT。1996年の4月30日に結成されたTEAM430の代表。BMXライダーとして2001年にプロ昇格。その後、ウェアブランド「430」を立ち上げる。2005年から香港に移住し、プロデューサー/俳優/映画監督のエリック・コット氏に師事。プロデューサー/映像制作を学ぶ。一昨年帰国後、原宿キャットストリートに430事務所を移動し、現在に至る。ハドソンの映像制作やREDBULL主催のコンテストのオーガナイズなど、洋服制作にとどまらずその活動は、多岐にわたる。旅好きとして知られている。
www.t430.com

山に登ろう

text: 草薙洋平 (東京ピストル)

最近、週末ともなると山登りに出かける。去年たまたま屋久島の宮之浦岳に登って感動して以来、あれよあれよという間に登山にはまってしまい、日本中の山を片っ端から登るのが趣味になった。体を動かすのが何よりも苦手。そんな僕がなぜ登山が好きになったのかというと、一言でいえばこれほど「死」について考えさせられる運動もないからだろう。登山前に、だれもが「遭難」のことを考えて、コンビニで携帯食や水を買う。携帯食として焼肉のタレに手を伸

ばす……。とまではいかないのだが (以前六甲山で遭難、焼肉のタレで3週間生き延びたというすごい人がいた)、自分に確実に起こりうる非常時を想定するというのは現実社会ではなかなかないことで、なんだか自分に起こりうる悲劇に小学生のようにワクワクしてしまう。死は最大の刺激である。

自分の健康管理が気になるようになって、都会のフィットネスジムに通いたいとは全然思わない。その理由を考えると、同じ体を動かすなら薬味として「死」がある山の方が、たいがいの遊びに飽きてしまった (?!) 僕にとっては面白いからだ、とある時気づいた。趣味で死ぬ、というのはすごいことである。もちろん、冬季登山やクライミングをしているような人と比べると僕の登山歴など取るに足らないが、やっぱり登山

の魅力とは死なのだろうと僕は思っている。登山書を読めば、登山家に困難が降りかかれば降りかかるほど山行記は美しい、とつくづく思い知らされるだろう。登山とは命をはれる手軽な旅なのだ。

登山はスポーツと呼ぶのはしっくりこない。ただ前に足を出すだけ。歩いて山を越える運動にすぎない。だからこそ、諦めなければだれにでもできる運動である。最近山に行ってももっぱら中高年ばかりが目につき、あまり若い人を見ない。それも運動のシンプルさゆえなのだろうと思う。

とはいえ僕は山にいるおばはんが苦手だ。集団行動、べちゃくちゃ延々喋りながら登山、道を譲るのも遅く、何かがあれば「やっぱり!!」「あら」「大変」「危ない!」と一斉に叫び、「もう少し慎重にならないとね〜」とまるで登山のプロフェッショナルかのように批評する。その無神経さが僕をイライラさせるよ!

山にいるおばはんはパチンコ屋のおばはんによく似ている。ギャンブルの先生が「パチンコのようにだれでもできる、つまりおばはんでもできるギャンブルはギャンブルではない」とかつて教えてくれたが、とするならばおばはんができる登山は、登山ではないのだろう。

僕は体が慣れたらより難しい登山をしようと考えている。おばはんのいない登山がしたいのだ。

Yohei Kusanagi
「東京ピストル」代表。編集者。東京ピストルとして数多くのデザイン制作にも従事している。現在ピストリクと拮抗するネット運動を起すべく、無職団体「Neetnik」で活動中。

ムラアカリをゆく旅

限界集落。日本は間違いなく地域から変わっていく

text : 友廣裕一



福岡県八女市 今ではもう数少ない手摘みの茶畑でお手伝い

最近よく目にする言葉に「限界集落」がある。集落の定義があいまいなのだが、居住者のうち65歳以上の人口が50%を超えた集落のことを指し、全国に7800箇所存在するといわれている (正式には高齢化率に加えて「共同体の機能維持が限界に達している状態」という条件が加わる)。2009年2月11日、「限界集落」と呼ばれる地域を中心に全国の農山漁村を訪ねる旅に出た。



愛媛県宇和島市 各幅1~2mの段畑。想像を絶するエネルギーに圧倒される。

大阪の町外れで生まれ育ち、東京の大学に進学したため「都会」の生活しか知らなかった。都会というところは「お金」と「時間」のモノサシが根底に存在する世界で、そのなかで「成功」することこそが幸せな人生を実現する方法だと思っていた。当然、よりよく生きたいと願い、行動して来たつもりだった……。ところが、大学4年の秋に新潟県南魚沼市の集落を訪れた時、自分のなかの価値観が大きく揺さぶられる。中山間の豪雪地帯に存在する、じいちゃん・ばあちゃんばかりの小規模高齢化集落。冬は雪に閉ざされるうえ、山間部なので農地もほとんど存在しない。かつては林業が基幹産業だったが、今は外材との競争に敗れて産業としては成立し得ない。これだけ書くと、きっと「限界」だと捉えられるに違いない。たしかに、都会のモノサシで計ると「限界」だと映る。しかしその土地に足を運び、暮らしのなかに身をおかせてもらい、食事を



富山県富山市 一軒しか残っていない集落 (橋本さん宅) で小水力発電実験中

して会話をすれば次第に気づくはず。「一体なにが限界なの……?」と。南魚沼の後に訪れた富山県で、集落に一軒だけが残って有機農業を実践されている方の家にお邪魔した。そこは有り余る山の恵みをいただき、家畜を飼い、エネルギーまで自給しようとしていた。どこを見てもそこは宝物であふれていた。そして話のなかで出てきたのが「東京こそが限界なんじゃないの?」という言葉。その時は返す言葉



岩手県陸前高田市 創業200年の老舗。日本で唯一「古式で絞りで醤油を作る

がなかった。昨年の金融危機により経済システムの持続「不」可能性が露呈し、地球温暖化をはじめとする環境問題により生活システムの持続「不」可能性に目が向けられるようになった。日本、そして世界が次のパラダイムを模索している。はくも同様に探し求めてきたのだが、直感的に日本の農山漁村にはそのヒントがあると思った。地球に暮らす人間にとって本当にサステナブルな社会を目指すうえでこのヒントが……。そう考えると、居ても立ってもいられなくなり、もっといろいろな地域を知りたいと思った。それも、ただ物見遊山的に見るだけでは意味がなく、おまけにお金もないので「お手伝いをする代わりに泊めてください」とお願いすることにした。そしてヒッチハイクで旅をはじめた。これを書いている今は約五ヶ月が経過した。旅立つ前には各地に知り合いなんて数えるほどしかいなかったけれど、おかげさまで沖縄から北海道まで全国各地を巡り、約50箇所総勢300人以上の方と出会わせていただいた。農業一筋60年のじいちゃんから、猿回し芸人や鷹匠などの伝統芸能を守る方々、自給自足型のライフスタイルを実践する家族や、東京から移住した若い漁師、世界遺産に暮らす人々まで。一人一人の暮らしの中に地域の真実が存在し、そこには変化の兆しが感じられた。「重箱の隅にこそ神は宿る」という言葉があるが、日本は間違いなく地域から変わっていく。この旅でその思いは確信となった。そのために自分が貢献できる道を探し模索している。



広島県大崎下島 みかん作り一筋60年の浜本さんご夫婦

Yuichi Tomohiro
2007年3月 早稲田大学商学部を卒業。在学中〜卒業後にかけてベンチャー企業2社の創業に関わる。社会起業家ビジネスプランコンテスト「STYLE4th」事務局、学生団体「早稲田リンクス」幹事長などを経て限界集落・過疎地日本一周の旅へ。
ムラアカリをゆく <http://murakari.com/>

TRIP-TRAVEL-JOURNEY

たった1日で日本一周の旅

都心の都道府県アンテナショップ29店舗を自転車で制覇

travel & text : 清田直博(Media Surf Communications Inc.)



旅をともにした我が愛車「MUJI TRACK号」。青森にて。



スタート→ 1.新潟県「表参道・新潟館」ネスバス(表参道)外国人観光客多し。休憩所でおばさんがクロスワードパズルやってた。2.福井県「ふくい南青山291」(南青山)アンテナショップらしからぬオシャレ感。共和党ペイリンのメガネもここで買える。3.東京都(離島)「東京愛らんど」(竹芝埠頭)アオウミガメの仔ガメのフィギュア売り出し中。くさやも。4.鳥取県「食のみやこ鳥取プラザ」(新橋)鳥取は島根の右側です。「ゲゲゲの鬼太郎」作者・水木しげる先生の出身地。鬼太郎グッズもある。5.香川県「愛媛県「香川・愛媛せとうち旬彩館」(新橋)香川と言えは讃岐うどん。手作りの竹製うちわの実演販売中だった。6.福島県「いわき」いわきから(新橋駅前)いわきと言えはハワイアンセンター。7.群馬県「ぐんまちゃん家」(東銀座)「剣崎桃」の試食。もちろん買わずに試食だけ。8.岩手県「いわて銀河プラザ」(東銀座)気分的になかには入らず。おばさまたちでにぎわっていた。9.熊本県「銀座熊本館」(数寄屋橋)月曜は定休日です。大正ロマン。10.鹿児島県「かごしま遊楽館」(日比谷)芋焼酎がたくさんありました。試飲はできず。11.石川県「石川県観光物産PRセンター加賀・能登・金沢 江戸本店」(日比谷)コンサバティブな雰囲気店内。ここでも試食。12.北海道「北海道どさんこプラザ」(有楽町交通会館)ショップ面積もデカイ。ジンギスカンキャラメルって……。13.秋田県「秋田ふるさと館」(有楽町交通会館)忠犬ハチ公は秋田犬。なまはげTシャツももちろん販売されていた。14.富山県「いきいき富山館」(有楽町交通会館)銭湯の風呂桶でおなじみの「ケロリン」を作っている製菓会社は富山。15.和歌山県「わかやま喜楽館」(有楽町交通会館)「キン肉マン」のナチグロンでおなじみの那智黒飴も。16.滋賀県「ゆめぶらざ滋賀」(有楽町交通会館)ひこにゃん(非売品)。図書コーナーがあり、近江商人の歴史も学べる。17.福岡県(博多)「The 博

多」(有楽町交通会館)ザ・博多(≠100円ショップ)。たまにはケンカに負けてこい♪でおなじみの「にわかせんべい」。18.大分県「坐来大分」(有楽町)物産ショップではなく、高級そうな料理屋さん。ドレコードでなかに入れます。19.沖縄県「銀座わしたショップ」(有楽町)昼間からオリオンビール。レジ女性カワイイ。ブルーシールアイスや三線、ツアー会社まで。ベストオブアンテナショップ。20.山形県「おいしい山形プラザ」(有楽町)お米、米沢牛、そしてさくらんぼカレー。21.京都府「京都館」(八重洲)外国人観光客多し。抹茶が飲める店。22.山梨県「富士の国やまなし館」(八重洲)甲州ワインの試飲が充実。経験値不足で味の違いはわからず。23.山口県「おいでませ山口館」(八重洲)ふく関連が充実。地元では「ふく」と呼ぶ。24.奈良県「奈良まほろば館」(三越前)東京で生の「せんとくん」が見られる唯一?の場所。25.鳥根県「にほんばし島根館」(三越前)島根は鳥根の左側です。まめ茶を飲み、漬物を食べる。26.青森県「あおり北彩館 東京店」(飯田橋)太宰治「津軽」をフィギュア化したクッキーも。27.宮城県「宮城ふるさとプラザ」(池袋)戦国BASARA米売出し中。精米機あり。牛タンを薫製を試食。28.広島県「広島ゆめてらす」(新宿)「カープかつ」。カープの世界。29.宮崎県「新宿みやざき館KONNE」(新宿)九州人にはおなじみの「愛のスコール」が買える。30.番外編:兵庫県(宝塚)「宝塚アン」(有楽町交通会館)交通会館の2階で宝塚ショップを発見。

ちなみに今回の旅の行程はGoogleマップにアップした。「東京で日本一周」で検索してみてください。なかなかタフな旅だったよ。

BOOK × TRAVEL by TOKYO BRAIN

神宮前のストリートにて海外の方にインタビュー。彼らの薦めてくれた本から、違う世界観を旅してみませんか。

interview & text : 鈴木美波(TOKYO BRAIN)



名前: Mark Edward(右)/Ashley Cameron(左)
職業: そり製造会社のオーナー
出身地: カナダ

・好きな本は?
「アルケミスト」 バウロ・コエーリョ
「夢みた彼のパーソナルな宝物を探るために、アフリカを旅した年のシンプルな話だよ」
・あなたの国でおすすめの書は?
「赤毛のアン」 モンゴメリ
「カナダにあるプリンス・エドワード島で育った少女の話」
・あなたにとって旅とは?
冒険、発見、そして経験。あとはおいしい食事をたべられること!

トップバッターは広大な大地のあるカナダ出身のキャプテン。服は日本にも上陸したH&Mとforever21。彼女がそろえているみたい。北の国で、それを作ってナチュラルに生きる彼らにとってもびびりた服装です。ファストファッションにみえませんが、そんな彼らがセレクトしてくれたのは、ブラジル作家パウロ・コエーリョの「アルケミスト」。旅とは?自分とは?といった問いへの答えを投げかけてくれる作品。



名前: Emmn Wickstran
職業: スタイリスト
出身地: スウェーデン

・あなたの好きな本は?
「マイフレンド・レオナルド」 ジェームズ・フライ
「とてもリアルな彼の生涯。あなたもきっと読むのをやめられないはずよ」
・あなたの国でおすすめの書は?
「Pippi Langstrumpf」 Astrid Lindgren
「スウェーデン人ならみんな読んだことがある児童書よ」
・あなたにとって旅とは?
ハッピーな気分。新しいショッピングの場でもあるわね。

スウェーデンから来日した、スタイリストの彼女。スウェーデンのブランドMONKIのワンピースを使って、全身セブラをさらりと着こなしています。彼女のセレクトした本は、アメリカ人作家ジェームズ・フライの自伝的作品、「マイフレンド・レオナルド」。回りにくい表現を使わず直球で斬えかけてくるフライのエネルギーに、あなたも圧倒されてしまうでしょう。



名前: Daniel Schwartz
職業: 学生
出身地: アメリカ・カリフォルニア

・あなたの好きな本は?
「ツバサ クロニクル」 CLAMP
「とてもワクワクするアクションがあって、面白い冒険漫画!」
・あなたの国でおすすめの書は?
「ハリウッド・ポッター」J. K. ローリング
「やっぱりハリウッドは、話の筋が面白いよね。小さい頃から読んでるよ」
・あなたにとって旅とは?
探求、楽しみ、驚き。

細くて背の高い彼はまだ17歳。服はすべて東京でそろえたそうです。靴や帽子をよくみると、確かにあどけなさが残っています。悩んだ末に彼がセレクトしてくれたのは、CLAMPの「ツバサ」!幼なじみの王女を救うために、異世界への旅にでる少年の物語。マンガの世界的ブームはここでも垣間見ることができました。日本語版を読んだ人も、英語版を読めばまた違った一面がみられるかも。

深夜のスーパーに来る人はみな旅人である

text : 野口尚古(印刷の余白Lab.)

日中は奥様方のたむろする日常の象徴が、終電が近づくにつれ様相を変える。レジからは閉店休業のように人がいなくなり、声をかけた店員さんどこか事務的。広いフロアに顔が覚えられないくらいの数組の客。色とりどりの果物、しかし魚や豆腐のプロパガンダBGMもない静寂。24時のスーパーマーケット。そこはまるで舞台の裏側のように、日常を未知化する場所なのだ。……なんて、格好つけすぎ?

でも深夜営業中のスーパーのちょっとした異世界感って、あると思います。買い物に来て下さるお客さんにも、シエラメーチェヴォ国際空港で日本人の姿を見つけたときのように、妙な連帯感を感じてしまう。そう、人っ気のないターミナルにも似ているかも。コンビニに立ち読みしたり暇つぶしに訪れるのとは違って、それぞれに日常へ還っていく。

例えば、割引シールの貼られたお弁当を真剣に吟味している、厳ついサングラスのお兄さん。と、思いきや向かいのスイーツコーナーでクリームプリン3つ。あ、電話のお相手は彼女か奥さんかなあ。でも3つだよ?娘さんとか?そもそもすぐプリンが似合わない……。

仕事帰りのベージュのスーツ美人は、手に取るものの成分表示を片っ端から確認中。見ては棚に戻しているから、まるで買わないために確認してるみたい。カロリーチェック中毒ってあるよ

ねえ。気持ちは、分かる(笑)。わざわざ深夜にスーパーに来ること自体、想像力をかき立てるものがあり、パブリックとプライベートのギャップが見え隠れする場所でもあります。

そもそも大規模小売店舗立地法の施行でコンビニだけでなくスーパーマーケットの営業時間が自由に決められるようになり、深夜営業が可能になってまだ10年経たないくらい。先進国でも営業時間に規制のある国も多く、深夜のスーパーという状況は最近になって、それも主に都市近郊に生まれたものといえます。そのためかまだきこちなさがあり、システムのところどころに見える溝が、むしろ不思議な空間の演出に一役買っている気がします。

旅行がエンタテインメントやレジャーを求めているならば、旅は見知らぬものを求めていく、発見のための行為かもしれない。とすれば、ごく日常のなかに少しだけズレと隙間を生んでいる空間で、パラレルな生活を発見することも旅とは言えないでしょうか。未知は遠くにあるのではなく、自分のすぐ隣にあるのだとも。

Naoko Noguchi
印刷専門のデザイン・制作事務所「印刷の余白Lab.」代表。技術のある印刷所と協力し、イメージやコストに合った素材・加工を提案する印刷コーディネート業の傍ら、印刷実験としての作品制作、情報発信を行う。
http://yohaku.biz/



佐々木俊尚 interview

ノマド・ワーキングの
すすめ

ノマド・ワークスタイルを提唱するジャーナリスト佐々木俊尚氏。氏は自身の著作や自由大学での講義などで新しい働き方の可能性を示している。「旅するように生き、旅するように働く」ということを聞いてみた。

interview & text : 田中佑資(TOKYO DESIGN FLOW)

ノマド・ワークスタイルとはどのような働き方なのでしょうか？

ノマドとは遊牧民を指す言葉です。ノマド・ワークスタイルとは、ノートPCやデータ通信カード、WEBサービスなど最新のテクノロジーを駆使しながら、場所に縛られずに自由に働くワークスタイルのことを言います。

最近では「決まったオフィスを持たない会社」や「企業に属さずフリーランスで仕事をする人」がもの凄い勢いで増えてきています。

なぜ今、ノマド・ワークスタイルなのですか？

ノマドが実現可能な技術的、社会的な環境が整ったのが大きいです。その要因となる手段は主に3つあります。

1つは、無線インターネットの普及。2つ目はクラウドコンピューティングの普及。これらの技術によって、いつでもどこでもWEBにつながるできるようになり、WEBにつながることでさえできれば、自分のデータ(企画書やエクセルなど)や情報源にアクセスし、アウトプットし、その結果をWEBのなかに保存しておけるようになりました。「デスクにある資料を見ながら」というような仕事のスタイルが必要なくなりました。

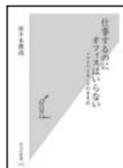
3つ目は、サードプレイスの出現です。スターバックスのように、家でもオフィスでもないけれど、くつろいで仕事に集中できる場所ができてきました。結果、オフィスという固定した場所を持たなくても、創造的かつ生産的に仕事ができるようになりました。

佐々木さんが著作や自由大学の講義で目指していることは何ですか？

今度の講義と著作では、ノマド・ワークスタイルの前提となる知識やスキル(アテンション力、コラボレーション力、情報コントロール力の3つ)を伝えていながら、生徒とのディスカッションを通じて、さらにその先にある未来について考えていきたいと思っています。

今は個人(フリー)でいることのデメリットがほとんどなくなりました。むしろ、これは僕個人の見解ですが、下手に会社に所属しているよりはフリーランスで働くほうがメリットが大きくなってきています。わざわざ混んでる時間にランチをかきこまなくてもいいし、満員電車で我慢して乗らなくてもいいんですから(笑)。それを実現するための知識とスキルを適切に学び準備していけば、何も不可能なことはいません。

Toshinao Sasaki
1961年生まれ。早稲田大学政経学部中退。毎日新聞社会部記者、月刊アスキー編集部デスクを経てフリージャーナリスト。「フラット革命」(講談社)「ゲルグ既存のビジネスを破壊する」(フログ論壇の誕生)(文春新書)など著書多数。内閣官房 IT戦略会議専門調査会委員、総務省情報通信白書編集委員、経済産業省情報大航海プロジェクト制度検討ワーキンググループ委員。
www.pressa.jp



新刊「仕事するのにお金はいらぬ - ノマドワーキングのすすめ」

拡張現実ゲーム
「電脳スターラリー」の思い出

text : akio0911 (Hacker's Cafe)



最近、拡張現実(Augmented Reality. 略してAR)という技術が話題となっている。漫画『ドラゴンボール』に出てくるスカウターを思い浮かべていただきたい。スカウターというのは、頭部側面に装着する機械である。スカウターを装着すると、相手の頭の上に強さが数値として表示される。

また別の活用法として、ARマーカーと呼ばれる模様を使う方式もある。ARマーカーは見た目がQRコードに似ている。ケータイのカメラを通してマーカーを見ると、今までなかったものが、ARマーカーの上に出現する。これらがARの典型的な例である。

今年に入って、ARの商業化に向けた具体的な動きが出てきた。最も有名なのは、頓知・(トンチツト)の「セカイカメラ」である。セカイカメラはiPhoneのアプリケーションである。iPhoneを目の前にかざすことで、エアタグと呼ばれるコメントが空中に浮かんだ状態で出現する。ユーザーはエアタグを読んだり、新しいエアタグを空中に浮かべたりできる。

僕はプライベートで「ハッカーズカフェ」というグループに入っている。休みの日に様々な組織のメンバーが集まって、ITを活用した制作活動を行っている。そんなハッカーズカフェで、2008年の夏に「電脳スターラリー」というARのイベントをやった。あらかじめ東京都内各所に116個の仮想の星を設置しておく。この星は人間の目には見えない。僕たちが作ったARパソコン(Webカメラが付いている)を通して見ると、仮想の星が浮かんで見えるのである。このパソコンを自転車のハンドルにくくりつけ、ナビがわりにして星集めのラリーを行う。仮想の星の50m以内に近づくと、星を拾った状態となる。24時間以内に全ての星を拾うことができるか? というルールである。

イベントは大成功。インターネットなどを通して多くの人が応援してくれた。ネット連動によるARの先進的な試み、ということで、朝日新聞などの各種メディアでも取り上げていただいた。次はみんなで参加できるゲーム、例えばAR戦争みたいなのをやりたいね、とメンバーで話している。

モチーフはもちろんスターウォーズである。

さて、ここでARと旅について考えてみたい。今のインターネットというのは、ケータイを使えばどこからでもアクセスできる。ネット通販で物が買える。友達の日記が読める。ネットバンクでお金の振り込みができる。しかし、例えば新宿でしかできないことなど、場所限定の行為というのがネット上にはあまりない。ネットにつながりさえすれば、居場所がどこであれモノが買える。日記が書ける。利便性は向上したが、「その場に行かなければ体験できない」というタイプのプレジャーは少なくなっているように思える。

一般的に、ネットでの活動とリアルでの活動は、かなり異なった感覚であると思う。僕たちが電脳スターラリーでチャレンジしたのは、ARとネットの融合。ネットと都市の融合。都市の中で行うデジタルかつアナログな冒険であった。そんなこともあり、このイベントでの体験は、生々しい記憶となって僕の心の中に未だ深く残っている。

20代最後の夏に取り組んだあの試みは、新しいのに懐かしい、そんな不思議かつ貴重な体験として、僕の大切な思い出の一つとなっているのだ。



akio0911
http://d.hatena.ne.jp/akio0911/
http://twitter.com/akio0911
拡張現実ゲームアプリ
「電脳スターラリー for iPhone」
http://d.hatena.ne.jp/akio0911/20090723/p1

宇宙までの距離

宇宙旅行の最新事情。

interview & text : 堀江大祐(Media Surf Communications Inc.)



「宇宙旅行に行きたい」と思っている人は多いはず。でも、どうすれば行けるのか真剣に調べるといったところまで至っている人は少ないのでは。そんなあなたにかわって聞いてきましたよ。最新の宇宙旅行事情。話を聞かせてくれたのは宇宙旅行の販売代理業や宇宙での映像撮影の

コーディネーターを行うSPACE FILMSの小林江里子さん。

既に宇宙旅行には6人が行っていて、計7回行われている。そして今年の9月には7人目が出発の予定だ。これまでの宇宙旅行者の顔ぶれを見てみると、そうそうたるメンツ。「現在の宇宙旅行はロシアのソユーズを使い、アメリカのスペース・アドベンチャーズ社が提供するものです。2001年に一番最初の民間宇宙旅行者となったアメリカ人のデニス・チトーさんは約25億円でその旅行を実現させました。現在の価格は約40億円です」やっばり高い……。この宇宙旅行が実現した背景には「ロシアでは comunism が崩壊し、経済不況によって宇宙船の1席を販売し、打ち上げにかかる莫大な費用をまかなう資金を確保している」という状況があるそう。宇宙旅行にはまだまだ危険が

あるが、そうした事情が民間人を宇宙に送り出しているという側面もあるのだ。

宇宙旅行にはいくつかの種類がある。まずは国際宇宙ステーションに一週間ほど滞在するもの。今行われている宇宙旅行はこれ。次に地球のまわりを一周するオービタルフライト(orbital flight)。そして高度100kmの大気圏外の宇宙へ弾道飛行し、数分間の無重力を体験するサブオービタルフライト。こちらは約1200万円~2500万円。最後に月旅行だが、一番実現までは時間がかかりそうとのこと。お値段2シートで220億円。

一番手の届きそうなサブオービタルフライトは「各社独自に機体を開発し、デザインに凝っていたり、ラグジュアリー感を漂わせていたり、他の旅行タイプとはちょっと毛色が違います」とのこと。なかにはあのマーク・ニューソンの機体のデザインを手がけているものもあるそうだ。訓練もラズベガスに滞在して、なんていうプランもある。まだまだ人を選ぶものではあるけど、「実現して、開発費が回収されれば、価格も下がる」らしい。金額面はそうでも、「唯一懸念されるのは事故」と小林さんが言うように価格が下がったとしても、危険性がどれだけ下がるかはまた別の話ということも肝に銘じておかなければならない。

価格のことはひとまず置いておいて、

宇宙には資金さえ用意すれば誰でもいけるのだろうか。あとで勝手な先入観だったと気付いたのだが昔宇宙にいけるのは「視力が裸目で2.0以上で、虫歯になったことがない人」だと思い込んでいた。しかし「コンタクトは無重力でどこかに行ってしまうのでダメですが眼鏡なら大丈夫です。虫歯も治していれば大丈夫。虫歯がダメなのは宇宙ではカルシウムがものすごいスピードで抜けてしまうからです。サブオービタル・フライトなら心臓疾患を克服した人でも行ける可能性がありますし、80歳のおばあちゃんでも行けるようになる可能性があります」なるほど、逆にいけない状態でありますかと聞くと「スペースシャトルでの飛行や国際宇宙ステーション滞在では、通常、当然とされる体の反応を示さないと宇宙で何が起るか予想がつかないので難しいです。宇宙に行くための身体の検査はかなり細かく行われるので、それまでわからなかった病気が発覚する人もいるようですよ」ということは宇宙に行くには、ちょっとした運も必要なんですね。

現在は宇宙旅行事情は以上のような状況だが、こうした段階まで来ているのは、全くの未知だった宇宙に対して先人たちがチャレンジを続けてきたからこそ。実際にロシア宇宙庁やNASA、日本の

JAXAとも仕事をしている小林さんは「宇宙開発に関わっている人たちにはフロンティアや未知、そして新しいテクノロジーに魅力を感じる人が多い」と言う。1969年のアポロ11号の月面着陸はあまりに衝撃的で、後世にも語り継がれる出来事だが、それ以前からアメリカとロシアによる宇宙開発レースによる技術革新があり、それ以降も日進月歩で宇宙への距離を縮めている。その間には事故もあり、死者も出ている。宇宙が近くなった、だからこそ、これまでの宇宙開発へのリスペクトが必要なのではないだろうか。

そうそう最後に耳寄りな情報。「サブオービタルフライトは数十万円程度で予約ができます」ということは「オレ宇宙旅行予約してるんだよね〜」なんていうのも背伸びすればできるかも。ご予約・ご相談はSPACE FILMSまで!



SPACE FILMS
宇宙での撮影機会を提供する宇宙映像制作会社。宇宙旅行販売も行う。

TRIP-TRAVEL-JOURNEY

Answers Lee's Choice

Traveling 窓を Traveling 下げて 何も怖くないモード

text : Alexander Lee Chang

「みんな繰り出す時間だ 待ちきれず今夜 隠れてた願いがうずきます みんな盛り上がる時間だ どうしてだろうか 少しでも不安が残ります」そのとおりだと思う。UHの歌詞から思ったんだけど、旅は新しいこと、楽しいこと、全てに未知があり、発見。進歩がある。Air、Ship、Train、Car、Run、Brain、Net っているいろいろな旅がある。その土地で生まれて、育ち、身を埋める。

昔は、情報を与えてくれる環境が少なかったせいか、情報を自分自身、もしくは先人に教えてもらい、同時に嫌なことも

からされ、成長をしてきた、と僕は思う。今は、たくさんの情報を否応無しにインプットされたくさんの経験を積んでもいないのを知っているつもりになってしまう。

好きなことをgoogれる今、嫌いなことはgoogらない、知らない、知らない。好きで新しいことって予想の範囲内で嬉しいが、楽しい結果は意外と少ない。知らない結果があることって恐怖であって嫌なこと。でもそれが新しい自分、隠れていた願いだったりもする。

仮に本当に傷つくことだったりしたとしても、いつかは治るし、強くなり、順応

脳
体

するように、以外と人間の体はたくましくできている。たまたま僕は脳がサド、体がマゾのラッキー体質なんで、嫌なことでも脳が「やりなさい!!」と指令し、体で食らう痛みに対しても「なんか痛いけど嬉しい!!」って思ったりもして、何かとうまくいっているが、僕はこのサドマゾ体質にかなり感謝をしている。

大げがをしようとする治りも遅いので小さなことから嫌いなことを沢山やろう!最初は自分の悪いところを友達に聞いてみるとか、嫌いな食べ物を食べてみるとか、まあ、自分がちょっと嫌いなことにチャレンジ

するようになると大きな嫌いなことにもチャレンジできるようになる。その見返りは結構大きいし、嬉しくて楽しいよ!サディスティックbrain マゾヒズムbodyへの体質改善をお進めします!

アレクサンダー・リー・チャン
1975年サンフランシスコ生まれ。アパレルデザイナー/プロスケーター/アーティスト。幼少期のカリフォルニアにてスケボーと出会う。10代の頃からプロスケーターとして活躍。96年より7年の間、アパレルブランドのディレクターを経て、03年独立し[Chang Co., Ltd.]を設立。04年S/Sよりスタートした[AlexanderLeeChang]ではアーティストとしても活動する彼のDIY精神で凝ったディテールと構築的なフォルムのプロダクトを生み出している。立体作品、コンピューターグラフィックなどが得意。

つぐよくだものとりつかせい

夢それは終わりのなき旅

text : 成瀬大輔 (フタバフルーツ三代目)



シンプルに自分自身の感情と向き合い、夢を描きその気持ちのまま旅に出て波や雪を求め、そしてまた旅に出る。まさに夢のようなライフスタイル。僕の20代は波や雪を求め、サーフィンやスノーボード、つまりYokonori中心の生活を送っていたので、色々な土地に旅をすることができた。北は北海道、南は沖縄、様々な場所でたくさんの思い出をつくることができた。

旅の醍醐味と言えば「食べること」と「人との出会い」ではないだろうか。その土地によって名物料理・おいしいお酒が必ずある。そこにともに楽しめる人がいれば自然と笑みがこぼれる。そういった場での酒宴は人と人とのつながりを強くし、その土地のカラーを知ることができる。よく、大事な話をする時にはおいしい食事がうまいと言われていたが……。おいしい食事を囲んでいけば人と人の距離は必然的に近づき、笑顔が生まれる。僕の場合、時にはみんなで歌を歌い宴は延々と続き、次の日に若干記憶がなくなっている時もありますが、何か? そういう楽しみは日本に限らず、海外でも言えることだと思ふ。海外旅行に行くと料理がおいしくなかったらがっかりしてしまうが、つまりそれだけ食べるということは重要なのだ。郷に入っては郷に従え。自分の気持ちに

正直になり、その気持ちで素直にその土地や文化に入っていけば旅は自身を解放してくれ、本当の自分が見えてくると信じている。

とは言え、最近では仕事も忙しく色々諸事情が出てくるとなかなか旅には行けなくなってくる。だから今の僕は、遠くに行くことだけが旅ではなく、気持ちの持ち方での旅を楽しんでいる。まだ暗いうちに目覚め、車のなかにはサーフボードとウェットスーツ等を積み、東京の自宅を出発し大好きな音楽を流し、首都高速を走らせ、六本木ヒルズや東京タワーを横目にレインボーブリッジを通り東京ディズニーランドも通過し、千葉の九十九里を目指す。ワクワドキドキ一日の始まりを朝日に共に感じ、波はあるのだろうか? 何処に入ろうか? どんな人たちがいるのだろうか? 旅の始まりの期待感と一緒である。サーフィンをし、現地の温泉に入り、その土地ならではのおいしい料理に舌鼓を打ち、まさに最高のショートトリップだ。旅と食は、一心同体。今僕は、フルーツ屋としてフルーツを通して食に携わっている。そしてフルーツ屋の三代目でありながら、今までのYokonori経験も活かしていきたい。

店に並ぶフルーツは日本全国いや世界各国からやってくる。まさにフルーツたち

が旅をして僕の店にやってきているのである。そんなフルーツたちをさらに深く勉強し、そのために産地に向き、生産者(農家)さんたちと交流を深め、その想いや現状をお客様に伝え、フルーツを単に売るだけではなく、その土地の隠れた名所や素晴らしい文化、名物料理や地酒などなど、フルーツを通じて日本のみならず、世界各地を紹介し伝えていけたら面白いなと思う。そして人と人がまたつながり、新しいことを発想し形にしていける。考えるだけでワクワクしてくる。

Yokonoriから始まった旅からフルーツの旅に……フタバフルーツ三代目成瀬「DaiDai」大輔の新たな挑戦という旅がスタートする。いつでも笑顔で忘れず。終わりのなき旅をしながら伝えていこう。Love, Smile and Rock on!

Daisuke Naruse "DaiDai"
1970年東京生まれ。西武新宿線都立東家駅前のフタバフルーツ三代目。サーフィンやスノーボードを通じて自然や仲間の大切さを学ぶ。自然の恵みであるフルーツをさまざまな角度からアピールし、フルーツ本来の可愛らしさや美味しさを伝えていくべく活動中。道すがら仲間が集まり、クリエイティブチームMEOWを発足。ものづくりイベント企画まで、想いのままに動き回る。
www.futaba-fruits.jp

旅学/自由大学

自分にとっての“旅”を見つける。

text : 芹沢菜澄 (自由大学)



最近巷では“世界一周旅行”という言葉が充満している。本屋には“世界一周旅行”関連の本が並び、多くの若者がその言葉に魅了され旅に出る。彼らの世界一周旅行に行く目的はなんだろう。行きた

い場所、目的がないから“世界一周”と言って旅に出る。そういった人がある。思わずうなずいてしまった。行きたい場所、やりたいこと、自分の意志がはっきりしている人の旅は明確だ。わたしも行きたい場所がある、それが繋がっていつの間にか世界一周するというまわり方もある。むしろしてみたいと思う。ただ、世界一周をするということが目的になってしまうのはすごくもったいない気がする。

たしかに“世界一周”した。と言われたら、すごい、と賞賛してしまうだろう。でも同じ世界一周でも目的があるのとないのでは全然違う。例えば目的が“世界中の人々の写真を撮る”という人がある。そんな彼が世界を旅して回ったらどうだろう。たくさんの写真をお土産に、旅が終わる頃には写真の腕も上がっ

ているだろう。カメラマンになるか、写真集をつくるか、個展をひらくか、もしくは愛する人たちに写真をみせるか。どれも良い。彼には旅に出たと言う自信に加え、別の自信がつくことになる。

自由大学では7月5日(日)から「旅学」という講義を開講した。7月開講の旅学1期生には15人の旅好きな人たちが集まった。講義は毎回旅のプロと呼ばれる方々を呼んで、彼らにとって旅とは何なのか、どのように旅をしているのか、また実践的な旅のノウハウなども幅広く引き出しつつ、学生自身、自分の旅を見つめ考えていくという内容になっている。

ゲスト一人一人、旅に対するの想い、熱、求めるもの、旅のあり方、そして関わり方は全く違う。旅という共通の言葉なのに、一人の人を通して全く違うその人の“旅”になるからおもしろい。だからか彼らの話は、自己紹介をしているかの様に、その人らしさが溢れている。耳を傾ける人間を魅了し、旅への衝動にからせる。

旅学の学生は毎回違うゲストの考えを真剣な眼差しで聞いている。全5回の短い講義だが、回を重ねるごとに学生も自分自身の旅と向き合い始め、答えを見つけようとしている。講義中にかわされるゲストへの質問もより具体的に、個人的なものになって来た。仕事、生活、未来への不安、旅をしたいと思う反面、不安になることも多々あると思う。ゲストの



旅の話の聞いたりや質問したりすることによって、少しでもその不安を解消し、進む力をつけていって欲しいと思う。

旅に規則はない。思うがままに、自分らしい旅を考え見つけてほしい。



自由大学
自由大学はIID世田谷ものづくり学校に6月から開校した、“子供からお年寄りまで誰もが学んで、教える”ことができる大学です。6月には3講義開講し、7月には7講義が開講しました。現在6月からの講義修了生を含め120人の学生がいます。www.freedom-univ.com/



TRIP-TRAVEL-JOURNEY

今月号制作中に海外を旅したTDFメンバーたちの旅の記録。

かもさんが杭州で…

旅のきっかけは知識

travel & text : 鴨志田由貴 (Media Surf Communications Inc.)

NYという街を知らなければ行くとは思わない。モルディブというリゾートも知らなければ行くとは思わない。僕が最初に行った海外旅行はタイとベトナムの一人旅で、きっかけは小林紀晴さんの『ASIAN JAPANESE』という一冊の本だった。

そしていま僕がこの原稿を書いているのは中国の杭州だ。杭州も僕は今回の仕事でなかったら知らなかった街だ。まるで京都のような落ち着いた街。緑が多く、西湖という湖が広がり、文化都市として機能し、比較的富裕層が住んでいる、ゆとりとしたところである。



ここにいま「Tokyo Animaid Cafe」という中国と日本のアニメ会社が協同で東洋アニメコンテンツの発信を目的としたカフェを誕生させた。いままでのような守りの姿

勢では日本のアニメビジネスは衰退してしまう。周りを敵と見るのではなく、パートナーとしてコンテンツを発信していくかを考えたほうが良いとの思いから立ち上がったプロジェクトである。

今回のTokyo Animaid Cafeはアキバのメイドカフェとは一線を隔す。Maidというのを広げるという意味で、東京のアニメを広げるカフェという意味だ。日本を記号



化したときに Anime, Manga というのはわかりやすく、イメージしやすい。また、日本のアニメのイメージは「先端」「カッコいい」ということで、いわゆるファッションのひ



とつとして、取り入れられている。

我々は今回お店のプロデューサーとして関わったわけだが、今回日本の自動車部品の物流会社と、中国側のTV事業・グッズ販売の会社と協同で会社を設立し、その会社の総経理(社長)として中国人の女性が起用された。

その社長は、いままで先述の日本の物流会社で3年間従事しており、今回の中国プロジェクト発足に伴い社長に就任した、高校1年生の息子を持つ女性だ。彼女はいま、お店の近くに住んでいるが旦那は彼女が日本にいる間は中国におり、彼女が中国に住むと同時に日本に赴任。

息子は上海におり、家族全員バラバラのところに住んでいる。家族全体がバラバラの場所にいるが息子がお店に遊びに来ると彼女の溺愛ぶりにほっとする。家族全員が旅をしている気がする。日本でもそのようなことをしているのは少ないのではないかな。もちろんこちら中国でもけっこうはないのだろうか。

いま後ろでニコニコ動画で流行っている曲がかかっているなかで、中国のコスプレイヤーが集団で踊っている。このような場所で、いまの日本とリンクしていたりする。アニメというフィルターを通して中国を見て面白い。いま日本のアニメコンテンツが「旅」をしている。



もえこがロンドンで…

贅沢な時間の過ごし方

travel & text : 大澤萌子 (TOKYO DESIGN FLOW)



いろいろあって1ヶ月間、イギリスに行ってきました。今回の滞在では、タイトなスケジュールをスマートにこなすような観光旅行ではなく、イギリスで生活する人たちと同じ



ペースでロンドンの街や時間の流れを楽しむことにしました。

イギリスの短い夏のこの時期、夜は10時すぎまで明るいので、一通り遊び終わったらみんなで公園に行って、もちろんワイングラスも持って。そしてただただ寝転がって、飲みながらぼーっと会話を楽しんだり、目をつぶったりしてみる。それが定番の1日の流れ。昼間は芝しかない公園にたくさんの人が集まって、みんなそれぞれにバスタオルやジャケットを敷いて、スーツのままじゃ楽しめないしYシャツも脱いじゃお昼休みのサラリーマンや、公園なのにビキニになっ

ている女の子たちと一緒に日光浴。まったくの他人同士の人たちが、同じ太陽と同じ風に、にこっとすれ違いざまに笑顔で挨拶しながら、体中で自然を楽しんでいるようでした。そのなかで、大好きだったフレーズが“Enjoy the Sunshine!”、雨だったら“Enjoy the shower!”。そんな贅沢な時間の過ごし方。太陽が動いてしまうとそれについていくように、場所を少しずつずらして太陽の光を求めにいく人たち。「暑いですね」と煙たい顔で日傘をさしている日本の風景とは全く違う素敵な光景。お金をかけて買った物したり、出かけた、シミとか日焼けとか、そんなつまらないこと気にしないで十分楽しめる方法を彼らはよく知っているんだな、と感じさせられました。

そしてPortobello Marketと呼ばれるNotting Hillで行われている有名なマーケットや、Covent Gardenのマーケットにも行ってきました。アンティークな掘りだしものがありそうなブースから、ガラクタまで、何にでも値段を付けて店先に並べている人たちと、時間をかけてゆっくりと楽しそうに

そんな品々を見ている人。もちろん品物を見ているのも面白いけど、ロンドンの人たちの少し意地悪な会話のやり取りを聞いているのも活気があってたまりませんでした。

そして何より月曜日から土曜日まで、ロンドン市内は昼間からパブには人が溢れています。みんなビール片手に席がなくてもパブの外で、何をそんなに話し込んでいるんだかって感じるくらい、立ったままおしゃべりとビールを愛する彼ら。雨が降ったって、寒くたって、道に溢れ出る人の多さはかわりません。働いている友達とその会社の方と一緒に飲ませてもらう機会があり、思わずイギリスで働きたい! と思ってしまったのは、金曜日の3時すぎにはBOSSがそろそろみんなでパブ行こうかなんて言い出して、5時くらいにはスタッフみんながビール持って笑っている、そんなところに同席できた時でした。もちろんそこには上司も同僚もいて、でもみんな分け隔てなく同じ空間にいる者同士、その共有する仕事後のプライベート時間を存分に楽しんでいるようでした。人と人のかかわりを大切に、



そして自然との付き合いかたを知っているイギリス人の生活に、とても幸せな気持ちにさせられました。

帰国直前にインフルエンザにかかり大変な思いをしましたが、結果刺激的な旅でした。ちなみにですが、イギリス人がこんなにもインフルエンザパニックと騒いでいてもマスクをしないのは、確率的にインフルエンザに感染するよりも、ジーンズを履こうとしてバランス崩して頭を打って死んでしまうほうが断然多いからだそうです。なるほど。

MAT.が香港で…

香港、混沌(いい意味で!)

travel & text : MAT. (Media Surf Communications Inc.)



3D絵本よろしく、飛び出してる!しかも、このネオン!



今年中に訪れようと思っている3都市、香港、台湾、上海。今回は友人のビジネスストリップに便乗し、出発の2日前にチケットを手配し香港を訪れた。3泊4日という短い滞在だったが、ちょっとだけわかった気になった香港をレポートする。

一度必ず行ってみたい都市だった。映画でもたびたびその街を目にしていたし、ここ日本からも近いからいつでも行ける、と思っていた。しかし、「旅」は黙って座っていれば、さりげなく向こうから訪れるものではない。自ら行き先を決め、パッキングをし、海を越え、自分自身の意思と目的を持って行くものなのだ。今回、友人がちょうど香港を訪れるとのことで、彼の意思と目的に、さりげなく自分自身のそれらを擦り合わせ、まわりのスタッフを「ほら!ペーパーの旅特集のために!自費だし!」と半ば強引に説得し、今回、初めて香港を4日間訪れた。

香港国際空港をでると、もわーっと体にまとわりつく暑さ。そうそう、これこれ。香港のこの暑さ。想像通り。タクシーから見える街並も、いい。このどギツイネオンが

3D絵本よろしく古い建築物から飛び出している感じ。たまらない。想像通り。飲茶も最高にウマイ!今度東京で飲茶に行った際は自慢しよう。「本場の飲茶を知ってるかい?」ってさ。あと、街を歩く人たち(おばちゃんたち)が飲んでる水筒に入った黒い飲み物。一見するとコーラだけど、多分何かのお茶。うーん……これは想像はできていなかったけど、でももういい!なんでもとにかく香港万歳!

香港は混沌としていた。何でもそこにある感じ。例えば、「東京」というキーワードで街を見回してみるとそこには、東京の雑誌、音楽、映画、食品などなんでもある(もちろん値段は少し高いのだけでも)。欧米のものも同様だ。LVと書かれた店の前で、様々な雑誌を道路に並べて売っている屋台が出ている。今、最もカッコいいレストラン(古いビルをリノベーション!)の裏手の今にも崩れそうな店では、おじいちゃん達が上半身裸で麺をすすっている。混沌としているのだけでも、居づらい感じはしない。多種多様な価値観がカオ



左から順に、今回のアフィリエイトで訪れたMater C.A.、ビジネスストリップのMIT C.A.、Mater C.A.のフランクのAqua 5年。後。

スのなかでしっかりと棲み分けされているような印象を受けた。

いろいろな世界中の都市を今までに訪れたけども、香港は4日なんかじゃ足りない。香港の混沌の先には何かがあるのか。今後も、定点観測を続けて行きたい。次回はあの謎の黒い飲み物にも挑戦しちゃうぞ。

NEW WORK, NEW LIFE.

Cooperated by 東京仕事百貨

TOKYO DESIGN FLOWと東京仕事百貨が、読者のみなさんによりよく生きることと働くことが一致するような、意義ある仕事への入口をご紹介します。

東京仕事百貨

東京仕事百貨は、独断と偏見で仕事をセレクトし、酸いも甘いも紹介する新しいプロジェクト。生き方を探している人のための求人情報を提供し、新しい仕事の見つけかたを提案します。給与や待遇だけでは伝えられない仕事や、東京仕事百貨にはたくさんあります。意義ある仕事を意欲ある人に届けます。http://shigoto100.com/

湘南に帰ろう

株式会社コロコパード

鶴沼海岸から歩いてすぐ。江ノ島が見える場所に事務所がある。ウェブサイトの制作が主な業務。東京から見れば、鶴沼海岸は非日常な場所。ある人は言う。「何か仕事で失敗したとき、普通は会社に戻るのには気が重くなる。でもこの会社、この地域は違う。どんな失敗をしても、駅を降りるとホッとするんだよ」。仕事をする時間は人生でもっとも多くの時間を費やすもの。そんな大切な時間なのに自分を裏切るのはいらない。



【給与】
職種、当社規定による
【募集内容】
1. 正社員 2. 契約スタッフ・アルバイト
【募集職種】
【ウェブデザイナー】
デザイン性の指向を最重視します。
・クライアントから依頼を受けたWebサイト制作業務のディレクション、デザイン業務
・当社が企画、運営するWebサイトの制作
・当社が企画、運営するフリーペーパーの入稿までのグラフィックデザイン業務
*webのディレクション経験1年以上
*CSS、Flashの経験1年以上
・募集要項(カコミ)
【勤務地】
神奈川県藤沢市鶴沼海岸2-11-29 鶴沼ニューマンション306
(小田急江の島線「鶴沼海岸駅」から徒歩7分)
【勤務時間】
9:30 ~ 18:30 (休憩1H)
完全週休2日制(土・日)年末年始、夏期休暇、有給休暇
【応募資格】
30歳位まで
【選考基準】
コロコパードは基本的にみんな誰でもやる会社です。写真を撮ったり、ブログを書いたり、人に自分の会社を紹介したり。同じ目標に向かって仕事をエンジョイできる方待っています。
【その他】
通勤費支給
求人特設サイトあり www.corco.jp
さらなる詳細は東京仕事百貨へ。http://shigoto100.com/

iPhoneに恋をした!

株式会社CHOCOLATE

株式会社CHOCOLATEはまさに新しいプロジェクトを立ち上げようとしている。日本から世界を変えるためのサービスを提供したいという。アイデアや企画の提供だけでもいいし、一緒にプロジェクトを立ち上げる!という力強いパートナーも募集している。具体的にはiPhoneのアプリの企画や開発。どんなに革新的な企業でも、はじめは理解されないことが多い。でも少しでも気になるなら代表の吹田さんへ会ってみるといい。会えば分かると思う。



CHOCOLATE
Bitter Taste Creation

【給与】
企画営業募集 (iPhone アプリ 企画営業、同時iPhoneアプリ開発者・プログラマー)
正社員登用もありです。
月額25万円以上
*試用期間 月額20万円(3ヶ月)
*アルバイトも募集しています。時給1,300円~ (正社員)
月額25万円以上
*試用期間月額20万円(3ヶ月)
【業務内容】
(iPhone アプリ 企画営業)
iPhoneで便利なアプリや、面白いゲームを企画する。(正社員)
新しいサービスの企画・開発等
【勤務地】
東京都板橋区南常盤台2-2-17 ※渋谷付近に移転予定。
【勤務時間】
応相談
【応募資格・選考基準】
特になし。
【その他】
応募フォームに記載されたiPhone アプリなどの企画の著作権(著作権法第27条および第28条の権利を含みます)は応募者に帰属するものとします。但し、帰属するのはあくまで応募フォームに記載された著作物の著作権であり、プランの内容について、株式会社CHOCOLATEおよび応募者双方の将来の活動を制限するものではありません。また、応募者は株式会社CHOCOLATEに提出した著作物について、株式会社CHOCOLATEが選考および事業化検討の目的で複製し、株式会社CHOCOLATE社内で利用することを許諾したものとみなします。
さらなる詳細は東京仕事百貨へ。http://shigoto100.com/

世界を良くする一食二鳥

特定非営利活動法人

TABLE FOR TWO International

世界の10億人が飢えに喘ぐ一方で、10億人が肥満など食に起因する生活習慣病に苦しんでいる。この不均衡を解消したい。そんな思いからTABLE FOR TWOは生まれた。賛同したレストランや企業の社員食堂で健康的な食事をすると、一食につき20円が開発途上国の学校給食一食分として寄付される活動を展開している。社会の役に立つ仕事がしたい、でも自分のビジョンはまだ明確じゃない。そんな方はまずTABLE FOR TWOでボランティアをしてみたらどうだろう。仕事内容は事務作業が多いけれど、社会起業家の仕事がよく分かるはずだ。



【給与】
まずはボランティアとして無償で働いていただける人を探しています。
【業務内容】
事務所でのデータ入力や照会等、事務作業
【勤務地】
東京都港区赤坂 最寄り駅は東京メトロ千代田線乃木坂駅
【勤務時間】
応相談。HP更新に関してはご自宅勤務可能。
【応募資格】
特になし。
【選考基準】
地道な作業、緻密な作業が得意な方
さらなる詳細は東京仕事百貨へ。http://shigoto100.com/

都市に農的生活のタネをまく - 未来の仕事の形。

メディアサーフコミュニケーションズ株式会社

Farmer's Market@GYRE

Farmer's Market@UNU

「culture (文化)」の語源は「cultivate (耕作する)」にあります。耕すこと、すなわち「農」という自然との関わりを忘れては、文化も不毛なものになるばかりです。我々は「都市にクリエイティブでサステナブルな新しい生活文化をつくる」べく、昨年11月から毎月、表参道GYREにてFarmer's Marketを行ってきました。Farmer's Market とは、生産者と消費者がつながる場所、人とモノと新しいアイデアが出会う場所です。未来の日本の農業と働き方に新しい形を提案します。今年の9月頭からは、青山通りにある「国連大学前」という場所も使って毎週末Farmer's Marketを開催することになりました。それに伴い、新しい仲間を募集中です。一緒に新しい仕事を創りましょう!

【業務内容】
Farmer's Marketの企画/運営及びプロモーション編集にかかわるすべて。
【契約】
1. 正社員(パートナー)
2. 契約スタッフ(アシリエイト)
3. 時間給アルバイト(サポーター)
【勤務地】
ID 世田谷ものづくり学校 / GYRE / 国連大学
【給与】
相談のうえ決定
1. 正社員 月給22万以上(社保、年金完備)
2. 日給・週給等。
3. 時給800円以上
【選考基準】
農や食に関心があり、「新規事業をつくる」という困難な仕事を楽しめる姿勢と創造的な意欲を持っている人を探しています。
【その他】
Farmer's Marketの企画/運営、及び農的生活をテーマにしたフリーペーパー、雑誌の編集などを通して、どんどん新しい仕事や企画を生み出していきたいと考えています。自己責任をとって、自分なりのアイデアがあり、事業組み立てに関心のある人はぜひお問い合わせください!
【問い合わせ先】
farmersmarket@tokyodesignflow.com (田中)

新たな価値観を提示する。

メディアサーフコミュニケーションズ株式会社

MEDIA SURF COMMUNICATIONSが一言で定義されることはありません。いろいろな企業とコラボレーションを行うクライアントワーク、原宿という街や若い人たちが作り上げてきたカルチャーにリスペクトを示すために「TOKYO DESIGN FLOW」という有機的で、捉えどころのない流れを創りつづけています。取って言葉で表現するとすれば、「新たな価値観を提示し続ける集団」。その集団がいま、情熱的な才能を求めています。



MEDIA SURF COMMUNICATIONS

【業務内容】
1. TOKYO DESIGN FLOWの企画、運営
2. MEDIA SURF COMMUNICATIONS 周辺のお仕事
【契約】
1.2. まずはインターン
【勤務地】
ID 世田谷ものづくり学校
【給与】交通費のみ支給(詳細は相談の上、決定)
3ヶ月ごとの契約形態の見直しがあります。
インターンからアシリエイト(時給制)、アシリエイトからパートナー(給与制)といったステップアップが考えられます。
【選考基準】
情熱をもって仕事に取り組める方。
作業としての仕事でなく、何か新たな仕事を自身で率先して探し、やり抜ける方を求めています。
【問い合わせ先】
info@tokyodesignflow.com (松井)
【その他】
メディアサーフコミュニケーションズ株式会社
www.mediasurf.co.jp
TOKYO DESIGN FLOW
www.tokyodesignflow.com

大学をつくる自由

株式会社スクーリング・パッド

自由大学

世田谷ものづくり学校内に「自由大学」が開校した。いわゆる「学校法人」じゃない。まったく新しい大学。この学校と一緒に創り上げていくスタッフを募集中です。「大学」の起源とされる11世紀イタリア・ボローニャで始まった自治組織という原点に戻り、「自由に学び、自由に教え合う新しい学校」というのがコンセプト。今回募集している仕事は、「レクチャーキュレーター」と「レクチャーオーガナイザー」。「レクチャーキュレーター」とは、講義の意図を自分の言葉で伝え、受講生を集めるのが主なミッション。それぞれの講義に合った最適な見せ方も提案・企画する。「レクチャーオーガナイザー」はまさに自由大学の屋台骨、開講が決まった時点で、教室や授業時間を柔軟に選択し決定することが仕事。その上で、自由大学の戦略・企画も考え実行していく。自己責任のもとに自分で仕事をつくりあげ、その対価として利益の分配を得るスタイル。自分は自由大学をこうしたい! というはっきりとしたビジョンがありますか?

【業務内容】
(レクチャーキュレーター)
講義の意図を自分の言葉で伝え、受講生を集める。
(レクチャーオーガナイザー)
教室や授業時間を柔軟に選択し決定する等の事務作業。今後の発展に向けて戦略・企画を考え実行する。
【契約】
1. 契約スタッフ
2. 時間給アルバイト
3. フリユニアフリエイトワーク
【勤務地】
ID 世田谷ものづくり学校
【給与】
相談のうえ決定
1. 固定給
2. 時給800円以上
3. 成果報酬
【選考基準】
自由大学の趣旨に賛同いただける人であれば、特になし。
問い合わせ先: info@freedom-univ.com (自由大学事務局)
<http://www.freedom-univ.com/>

TOKYO DESIGN FLOW SUPPORTER'S LIST

下記店舗にてTOKYO DESIGN FLOW paperを入手できます。

- | | | | |
|--|---|---|---|
| <p>■表参道・原宿エリア
HIDEAWAY/SMOKE BAR
&GRILL/Sunshine Studio/
Café Studio/MiLK café/
LoiteR/Ucess the lounge /
WIRED CAFE 360°/head
porter/Burton/GRAVIS/55DSL
TOKYO/DEPT/K-SWISS/
inhabitant/UNDFTD/STUSSY
Harajuku Chapt/Patagonia/
AIGLE/The North Face /
EASTPAK/Lafuma/TOKYO
HIPSTERS CLUB/MIZUNO/
QUIKSILVER Flagship Store
原宿/element/kinetics/
atmos/X-LARGE/VA/SOPH./
BLISTER/Rocker & Hooker/</p> | <p>GALLERY SOCIAL/FREAKS
STORE/Manhattan Portage
TOKYO/GREGORY Tokyo
Store/ADIDAS ORIGINALS
SHOP HARAJUKU/
CARNIVAL/FIG BIKE/
W-BASE</p> <p>■外苑前エリア
GORO'S DINER
ストアcafe
Sign gaienmae
OFFICE/PROTECH</p> <p>■青山エリア
briftH
Chambres D'hotels HANA</p> | <p>■渋谷エリア
SPBS
SLOW JAM
SEXON SUPER PEACE</p> <p>■代官山/中目黒エリア
Sign daikanyama
STITCH TOKYO
styles代官山
FRAMES
UNIT
FIG BIKE/ぬかや
combine books & foods
PEdALED</p> <p>■六本木エリア
SuperDeluxe</p> | <p>■三宿エリア
ナリワイ 下馬土間の家
H TOKYO
IID 世田谷ものづくり学校
三宿Web</p> <p>■代田橋エリア
Chubby</p> <p>■五反田エリア
GOTANDA SONIC</p> <p>■浜田山エリア
狸サイクル</p> <p>■下北沢エリア
気流舎</p> |
|--|---|---|---|

SUPPORTER'S NEWS

モンゴル武者修行ツアー

現地の文化や雰囲気をもっと体験したい、遊牧民の技を習いたいという人のための限定12人ツアー。9月ツアーが今年最後! <http://www.furowork.net/mongolia/>



Viva La Fruits feat. Beach Rock 湘南

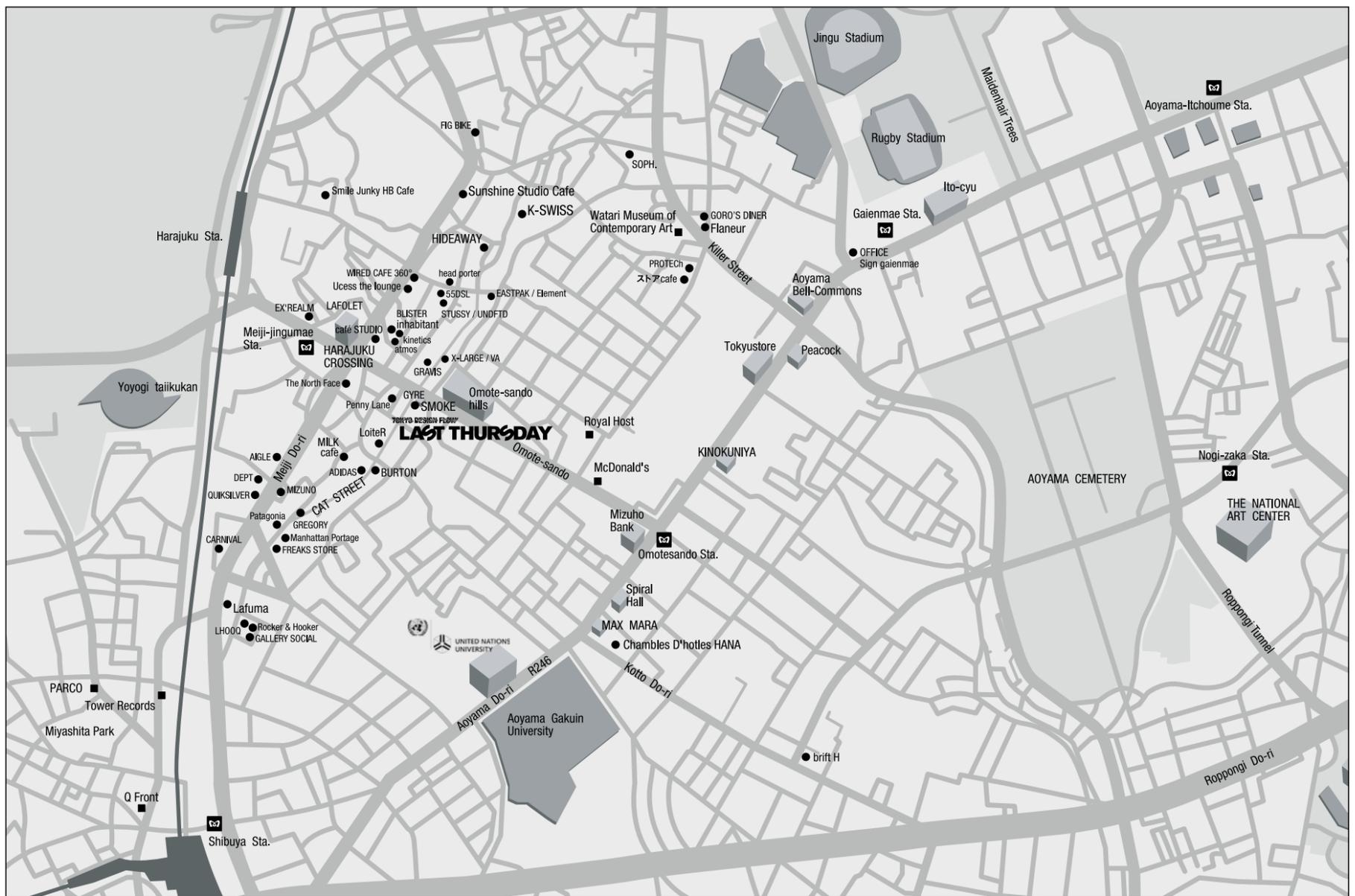
青山のフルーツパーティーとして評判だったViva La Fruitsが湘南にやってきた! 夏真っ盛りの海でほった体はフレッシュなフルーツでクールダウン! 沖縄Beach Rock VillageのアンテナショップBeach Rock 湘南で琉球の風を感じろ!

【会場】Beach Rock 湘南 URL: <http://www.beachrock-s.com/> 【日時】2009年8月1日(土) 16:00/20:00 【料金】Men ¥2,000 / Women ¥1,500
【アクセス】神奈川県藤沢市片瀬海岸西浜海水浴場16番 【主催】Master Mind of MEOW 【協力】Beach Rock Village, フタバフルーツ, Tokyo Design Flow, overdesigncreation, N.G.R. Products

スクーリング・パッド 自由大学で「自転車で働く」講座を開講。

自転車を用いて「何を売るか?どうやって売るか?自転車は?場所?」などをいっしょに考えて、実践する講座です。吉祥寺などで様々な自転車移動販売の店舗。こんなお店や働き方が増えると街も自分も、もっと楽しくならないでしょうか? 週末だけの副業としてもいいかも。

自由大学講座「自転車で働く(本気編)」 教授:三輪ノブシ / 自転車で働く人々キュレーター:清田直博 日程:9月開講予定 受講料:28,000円
会場:IID 世田谷ものづくり学校 詳細&申込みはコチラから <http://www.freedom-univ.com>



●: TOKYO DESIGN FLOW paper 設置店舗

配布店舗募集 我々の考え方に共感し、「TOKYO DESIGN FLOW paper」を応援して下さる店舗様を募集中です。興味のある方はinfo@tokyodesignflow.comまでお問い合わせください。

ネット販売 雑誌のオンライン書店「Fujisan.co.jp」にて「TOKYO DESIGN FLOW paper」をお買い求め頂けます。 <http://www.fujisan.co.jp/magazine/1281683108>

定期購読のお申し込み 定期購読をお申し込みいただけます。 info@tokyodesignflow.comに「定期購読」と件名に記入し、お名前、住所、電話番号、部数をご記入の上、お申し込みください。



Schooling-Pad

デザインを知り、
クリエイティブリーダーシップを育む

**Not just knowledge.
Access to wisdom.**

デザインコミュニケーション学部9期生募集中!
www.schooling-pad.jp



AFTER WORDS

「旅」と「旅行」は違うのか。最初の企画MTGで議論になりました。確かにちょっとニュアンスが違うかもしれない。「世界一周の旅」「世界一周旅行」それぞれ思い浮かぶものは違うかもしれませんが、状況によって、言葉の位相は流動的なものです。けれど、両方の根底にあるのは非日常を求める好奇心のかなと思います。2年前にアフリカのマリ共和国に行く機会がありました。水問題の視察だったのですが、ツアーだったので、スケジュールは完璧。しかし、アフリカの自然にスケジュールなんて関係なし。「見渡す限り土と草だけ、どこが道なの?」「ドライバーさん自信満々で飛ばしているけど、ルートは大丈夫?」と、結局道を間違えたりで、2~3時間押しは当たり前。社内のクルーはぐったり。でも僕はそんな状況でも楽しんでしまいました。今思うと、視察旅行が旅に変わった瞬間だったのかもしれない。でもしばらく経てば視察旅行に戻ります。でも視察旅行も現地の状況に触れてとても意義があるものでした。その繰り返し。そうした繰り返しを考えると、日常にも旅はあります。日常と非日常の行き来が活発になり、変わり続けることが日常になり、そして日常が旅に。だから旅にはすべてがある。そうか、そういうことか。

編集長 堀江大祐

LAST THURSDAY 6.25 2009 REPORT

1st Anniversary Special Night!

text: TOKYO DESIGN FLOW

今回で一周年を迎えたLAST THURSDAY。ライブペインティングにはesowとVIXを迎え一つのキャンバスで2人の絵が交わるという夢のコラボレーションを実現。DJ陣は今回初登場のDJLa-ni(from Viva la Fruit)、Nanmix.com.、そして最後はご存知大貫憲章氏で盛り上げます。今回は新大久保の東京宣伝美術社でも同時にイベントが開催され、相互を映像で繋げ、Night Pedal Cruisingでも両会場をリンク。これから始まる新しい1年に更なる可能性を感じることができた夜だった。これからもLAST THURSDAYをよろしくお祈りします！



comment from organizer of “東京宣伝美術社”

今回のLAST THURSDAY at 東京宣伝美術社は僕たちと麹町画廊のコンネクションがあったからこそ実現することができた、幻で最高なイベントだった、と感じています。20分の制限時間内でコンセプトチャルなLIVE PAINTを書き上げる緊張感。制限時間が迫るにつれ、焦燥感をあおるDJ。観客までもその切迫のなかに包み込み、残酷にもその20分は今、今、今、と刻まれて行く。制限時間0:00をカウントした瞬間。音楽は止み、照明は落とされ、その世界が閉じる。一瞬の間を空けて、観客と演者である画家は歓喜の声を同時に上げる。最高の時間が最高のシチュエーションで展開された忘れられない夜でした。きっかけをくれたLAST THURSDAYに感謝！BLESS! 古屋大和(ワン・ツー／エコー・ラボ響き伝え研究室)

NEXT LAST THURSDAY >>> 8.27 2009

「東京宣伝美術社」という幻

text: 古屋大和(ワン・ツー／エコー・ラボ響き伝え研究室)

「東京宣伝美術社」に出会ったのは2008年の夏頃で、初めてその内部に侵入した時の感動は、あのマスクが残るビビッドな壁面の残像とともに、今でもぼくの目に鮮やかに焼き付いている。

その頃、ドキュメンタリー的に追いかけていたJAZZ TRIOが「COLORS OF AGENDA」というアルバムを収録し終えたばかりで、ぼくは閃いた。「この曲のPVを東京宣伝美術社の壁で表現しよう!」。

「東京宣伝美術社」という強烈なVibesに引き出されるように、テイクを重ねていくうちに……。点滅するはずのない電灯が点滅を繰り返し電源がバチバチ言った! 不思議な状況に少しパニック気味な周りとは裏腹に、ぼくにはどうしてもこのビルに「こもる何か!」が、サウンドに合わせてぼくらを祝福しているように感じられるのであった。

そのPVは各地のTOWER RECORDSの大きなスクリーンや店頭でPOWER PLAYされ「COLORS OF AGENDA」はタワーレコードのJ-JAZZ チャートのトップを数週間、走り続けた。もちろん彼らの実力もそこにあったことは確かだが、こんなカタチで「東京宣伝美術社」は自らのポテンシャルを僕らに誇示した。

35年余のあいだ、主に映画看板を手書きしていた「東京宣伝美術社」には確実に「ものづくり」のVibesが溜まっていて、ここから発信した作品には「熱」を纏わせ、訪れるヒトには語らずして強烈な「何

か」を発信していた。その「熱」が拡まっていくさまを、僕はただただ見たかった。「東京宣伝美術社」を現代に解放して、かつて繰り広げられていた「クリエイションの熱」をアップデートして蘇らせることはできないか?と考案「あなたのクリエイションを『東京宣伝美術社』で解放しませんか?」と世間に問いかけた。

その思いに賛同した、アーティスト／フードインスターレーション集団／ミュージシャン／映像クリエイター／雑誌編集者／カメラマンetc.様々な表現で、イマジネーションで、すばらしい作品を残していく、「場所の鎮魂」を果たすことができた。「東京宣伝美術社」という幻を、心ある方々と共有できたことをぼくらはいつまでも誇りに思い、「東京宣伝美術社」から受け取った「ものづくり」のエネルギーをヒトに響き伝え感謝をカタチに変えて生きようと覚悟できた。

そして、その一歩として淡島通りにギャラリー／オフィスを構え、地域と密接した「ものづくり」の現場、響き伝えるラボを築いています。「東京宣伝美術社という幻」を体感したぼくたちの今後の活動に、ご期待いただければ幸いです。

東京宣伝美術社の創始者である先代牧野社長と現社長そしてご家族の皆様のご協力に感謝します。頂いたお手紙がぼくらの宝物です。Bless!



実際に東京宣伝美術社を使い、食と音楽の饗宴「MUSICO」を開催したMANGOSTEENよりメッセージ

東京宣伝美術社は友人の紹介で知ったのですが、建物自体はもちろんですが、その歴史や関わっている人たち全てが魅力的でした。「MUSICO」はMANGOSTEENとしての純粋な表現の場です。毎回どうなるのか予測不能で、予定調和ではないところが面白いと思っています。僕たちは食やケータリングを通して、未来の明るいビジョンを提示していきたいと思っています。東京宣伝美術社が無くなってしまふのは残念ですが、ここでのイベントをステップに活動を続けていきます。

ワン・ツー／エコー・ラボ響き伝え研究室
「響き伝え喜び感じ人を感じ喜び伝え響かせていく、生き方の提案」を理念に据えて、2001年9月11日にスタート。東京宣伝美術社を運営。 echo-lab.net

(写真は全て6月21日(日)に東京宣伝美術社で行われた「MANGOSTEEN Presents MUSICO vol.2」のもの)



©UCKA&MUCKA



Substance of traveling

Reason to travel

Diversity of culture

MONTHLY EVENT TOKYO DESIGN FLOW

LAST THURSDAY

ART, FASHION, FOOD, TRAVEL, SPORTS, MUSIC and DESIGN.

www.tokyodesignflow.com